

『みんなの笑顔のために』

4年ぶりに開催された和水・玉東陸上記録会

例年にない猛暑のため、練習もままならず、熱中症の心配もあり開催できるかどうか心配した陸上記録会でしたが、一生懸命に競技する子どもたちの姿を見ることができ感動しました。そして、さらにうれしいことがあったのです。それは、菊水小学校の子供たちの応援のすばらしさです。走っている子供たちに向けて、応援リーダーの号令で、声をそろえてテントからの声援を競技の間中送ってくれたのです。

元プロテニス選手でスポーツキャスターの松岡修造（まつおか・しゅうぞう）さんは、応援することについて次のように話されています。『応援するということは、その人の気持ちに寄り添うということです。頑張っている人を応援すると頑張っている気持ち、挫折を味わっている人を応援すると挫折する気持ちを共有することになります。たくさんの方の人生を共有しながら生きていくことになる。そこが「応援」の最も魅力的なところですね。』

そもそも応援という言葉調べると「他人の手助けをすること・元気づけること」となっています。応援ができる人は、自分のためだけではなく、「誰かのために頑張れる人」と考えることができます。菊水小学校には、『みんなの笑顔のために』がんばれる子供たちがたくさんいます。



ソフトボール投げで
大会新記録を出した
5年生二人
池田くん（52m）
坂本くん（51m）

<大豆も、子どもたちも・・・>

正門横の畑では、3年生が種まきをしてくれた大豆が元気に育っています。種まきをしたあと、3日後に芽を出したのもあれば、1週間以上後になってやっと芽が出たものもあります。だから、今その成長の様子を見ると、背丈が大きいものもあれば小さいものもあります。その様子が子どもたちと重なって見えてきました。成長がはやい大豆もあれば、ゆっくり成長する大豆もある。しかし、時期がくればどれも立派な実をつけてくれるはず。その成長を信じて水やりをするなどの管理（子どもにとっては教育）が必要なのだと考えたところでした。



8月の終わりに、丸美屋の方と大豆畑の土寄せ作業をしました。そのときに、面白いことを教えていただきました。大豆畑の余分な雑草はしっかりとったほうが良いと思っていましたが、「少し位雑草があったほうがよい」とおっしゃったのです。すべての栄養が大豆だけにいかないほうがよいとのことでした。このことから、子どもたちの成長にとっても、多少の困難（雑草）があったほうが、よりよい成長につながることもあるのかもしれないと考えることができました。

♥ 琴の寄贈ありがとうございました ♥

本校では、4年生以上の児童がクラブ活動に取り組んでいます。本校のクラブの構成は次の通りですが、すべてのクラブについて地域の方から指導いただいています。地域に根差した活動を行うことで、地域の人とのつながりを持ち、生活を豊かにすることを目指しています。



○陶芸 ○絵手紙 ○史跡探索 ○囲碁 ○グラウンドゴルフ ○琴 ○大正琴 ○太鼓

実は、今回地域の方から学校に琴を寄贈していただいたのです。本年度、11名の児童が琴クラブに参加していますが、学校にある琴では足りず、指導者の先生の琴をお借りしている状況でした。ですから、今回の寄贈は本当にありがたいものでした。地域の皆様の日頃からのご支援に心から感謝申し上げます。